

ナルコティクスアノニマス60周年を祝う
 1953年～2013

2013年10月発行
 第30号 / 4号





編集者からひとこと

世界中で読まれているNAの 定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由にのせられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

紙版のNA Wayマガジンはページ数が決まっているため、どうしたって掲載できる内容が限られてしまう！ わたしは言葉を尽くしたいし、回復の道を進むアディクトやその心をふるわせる物語を愛してやまないで、物語を大幅に減らしたり、投稿のなかから選り分けたりしなければならないことにとっても心が痛む。それが素晴らしい物語であったりすれば、なおのことたまたまれない。今月号でも、段落の途中で終わっている物語がいくつかあるのがわかるだろう。つまり、全部を載せるには誌面が足りないのだ。しかし、わたしたちはここで頭を抱えてしまうのではなく、解決の道を進んでいくことを選べる。インターネット版のNA Wayマガジンがあるからだ。インターネット版なら、(毎号の表紙をクリックするだけで) 表紙の写真やイラストがポスターになるし、紙版にはないWCNA35に関する物語や写真 (ビルにライトアップされて、NAがフィラデルフィアに歓迎されているかのようだ) を楽しむことができる。そしてWCNA35でお披露目された新しいミーティングの形式の案内のほかに、(紙版では省略されてしまった) アフリカのメンバーによる記事が2つとも全文で掲載され、紙版にはない物語もひとつ追加されてというぐあいに、内容が盛りだくさんになっている。また、NA60周年を祝う4部構成のポスターシリーズ (2013年の各号の2ページ目をクリックしてご覧いただきたい) もインターネット版ならではのものです。見て楽しく、ポスターにしてもよしというものだった。みなさんもたぶん、今月号でインターネット版のNA Wayマガジンを購読しようという気になるのではないだろうか。そうと決まれば、さっそくwww.na.org/subscribeで予約購読の手続きをして、インターネット版でなければ読めない内容を、あますことなく堪能していただきたい。

ド・J (エディター)

Electronic subscribers can click here
for exclusive NA history content.

今月の掲載記事

特集記事	3	アフリカ大陸ゾーナルフォーラム	14
<ul style="list-style-type: none"> クリンタイム・カウントダウン WCNAの新しいミーティングの形式 		<ul style="list-style-type: none"> AZFの成り立ち 南アフリカの発展 	16
わかちあい	5	東アフリカNAコンベンション	16
<ul style="list-style-type: none"> ザ・ジャーニー・コンティニューズ : WCNA35での物語 		『伝統』に関する書籍のプロジェクト	17
フェローシップディベロップメント	7	ワールドサービスカンファレンス	17
<ul style="list-style-type: none"> ミネソタに吹く「新しい風」 つながりがなければ、はじまらない 		Calendar	18
メンバーシップ調査	9	NAWS Product Update	19
仲間たちの絵はがき	12	Coming Soon	20

表紙の写真 : フィラデルフィアで開催されたWCNA35では、NAの60周年をたたえる巨大な光のボールがメインミーティングの会場を照らし、2,000人を越えるメンバーたちがNAWSの現地オフィスに設けられたNA Wayマガジンのコーナーに「仲間たちからの絵はがき」を飾った。

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することを忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

クリーンタイム カウントダウン

ぼくは、WCNA35で4年のクリーンタイムを祝うことができました。でもそれだけの時間を使わずにいたというのが、どこか他人事のように、その日になってまったく実感がわかずにいたのです。自分がしたのは降伏することぐらいで、それからあとのことはナルコティクス アノニマス、すなわち「みんな」でしたことでした。そう考えると今さらながら、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ぼくが降伏したときにNAが存在したように、ぼくより先につながってNAのドアを開けておいてくれた人たちがいなかったら、こんなことを書いている自分もいなかったでしょう。

日曜になってみんなで帰る支度をしているときに、ある仲間がぼくに話しかけてきました。コンベンションはどうだったかと聞かれて、ぼくはクリーンタイムのカウントダウンを行う日が自分のクリーンタイムの記念日だったので、ああやって祝うことができたのがどんなに素晴らしいものだったかという話をしました。すると、この仲間は、自分は夫や親しい仲間たちと一緒にコンベンションにやってきたのだと言い、クリーンタイムのカウントダウンでは、夫が30年、夫の親友は25年、そして自分の親友は20年で、それぞれ立ちあがったという話をしたあとで、ほんとなら自分は15年で立ちあがるはずだったのだけど、今年の初めにリラプスしたので数カ月のクリーンタイムで立ちあがることになってしまったと言ったのです。

この仲間は、そのときのことをわかちあってくれました。クリーンタイムのカウントダウンに参加することで、罪悪感や、自分を恥じる気持ち、後悔の念などがあらためてこみあげてきたこと。それによって、自分がクリーンタイムを捨ててしまったことで何もかも無駄になってしまい、みんなをガッカリさせてしまったような気がしたこと。そういう自分に怒りを覚えたこと。そして、こんな話をするのははじめてで、これまでだれにも言えなかったのだと言っていました。

ぼくは、まさに自分がいるべき場所にいたことに心から感謝しました。それで、こういうときにNAの仲間ならきっとそうするだろうということをしたのです。自分でもわかっているだろうけど、リラプスすることは恥でもなんでもない。恥ずべきなのは、戻ってこないことなんだ。『ベーシックテキスト』にそう書いてあるじゃないかと言いました。とにかく、この仲間は戻ってきたのです。ぼくは、心からお帰りと言わせてもらいました。そしてあらためて、リラプスするまで15年もクリーンでいてくれてありがとうと言ったのです。だって、この10年かそこら踏ん切りがつかないまま、ぼくがあつちの世界でクスリ漬けになっている間に、この仲間がずっとクリーンでNAのドアを開けていてくれたんですからね。そうやっても、この仲間をはじめとしてぼくの前につながった仲間たちがNAのドアを開け続けてくれなかったら、ぼくはクリーンタイムのカウントダウンの日に4年のクリーンタイムを祝うことなどありえなかったし、あの日あそこでこの仲間と立ち話することもなかったでしょう。これこそがまさにプログラムのなせる業で、本当にほれほれとします。ナルコティクス アノニマスには、感謝してもきれません。

ジェイソン・L (アメリカ合衆国/ウェスト・バージニア)



WCNAの新しいミーティングの形式

NAワールドコンベンションではもともと、開催中ずっと通して開かれるマラソンミーティングでメンバーたちがいつでもわかちあえるようになっていた。それはこれからも変わらないが、今回のWCNA35では新たに2つの形式でメンバーたちがわかちあえるミーティングがお披露目された。そのひとつ、「今日だけ」（日々の黙想）と「日々のステップ10」のミーティングは、無作為に選ばれたメンバーが前に出るという形式で、それぞれにその日の『今日だけ』や『ステップ10』に書かれていることについてわかちあった。もうひとつの「フラッシュグループ」はセッション形式のミーティングであり、知らない者同士でひとつのテーブルを囲み、各テーブルごとに私たちの新しい書籍である『リビングクリーン「ジャーニー・コンティニューズ」』をもとにして回復に関するわかちあいを行った。どちらも蓋(ふた)を開けてみると参加者がとても多く、毎回、入りきれないほどの盛況で回復に

満ちあふれたミーティングになった。

HPが働くミーティング

この「日々の黙想」という歴史的なミーティングの幕開けで、最初の司会者となった経験をわかちあえるのは喜び以外の何ものでもありません。それは、はじめから素晴らしい経験でした。わたしはまず、参加者たちにミーティングの形式を説明しました。わかちあいを望むメンバーはそれぞれに番号札をとり、著作権放棄の書類に署名すること（このセッションは録音されることになっていたからです）、それによって5分間のわかちあいをするメンバーが無作為に呼び出されることになると伝えました。すると、メンバーたちは一目散に駆(か)けつけて署名したんですよ！これは初回のミーティングだったこともあって部屋は一杯にはならなかったけれど、この『今日だけ』についてわかちあうミーティングのことは口コミで広がっていたので、翌日の朝にのぞいてみると、もう座る場所もないぐらい。大盛況でした。

わたしは、この形式がいかにシンプルでこじんまりとしているかということ、コンベンションで多くの仲間たちに話しました。ミーティングのなかで時間を配慮することは、わたしのホームグループでは議論的になっているので、今回このような有意義な経験をしたからには、ホームのビジネスミーティングでもう一度話し合ってみるつもりです。この形式で提案されたことが、どんなに好評だったか、そして世界中から集まったアディクトたちがどんなに簡単に応じたかということ伝えていきたいと思います。あの会場には、コンベンションを通してずっとハイパーパワーが働いていたのだと信じています。だって、あの場で、わたしが目の当たりにした多くのわかちあいには感謝の気持ちでいっぱいでした。あのような存在は、感謝の気持ちによって感じ取るものなんですよ。ジェニーナ・A（カナダ/オンタリオ）

シイーーーーツ、静かに

わたしは、日曜のフラッシュグループを司会してすごくいい経験をした。まったく、大成功だったわ。会場は、セッション開始30分前に満員になった。テーブルについてメンバーと、部屋の中や外の床に座ったメンバーとで、400人は集まったんじゃないかしら。それだけの大観衆を静かにさせることができるかしらと、ちょっと心配になった。それで、わたしは何年も前に出席したビジネスカンファレンスで学んだテクニックを使ってみたのよ。「みなさん、ようこそ。わたしはアディクトのシェリーです。これから3つ数えたら、みんなで黙とうしましょう」わたしは手を挙げて、指を折って数えた。「3, 2, では、1で口を閉じましょう・・・シイーーーーツ」針が落ちて聞こえたと思うわ。フラッシュグループの何がすごくて、メンバーたちが身近な存在として親密に心を通わせるのを目の当たりにできるってことだった。みんな、終わるころにはあちこちでハグしたり記念写真を撮りあったりしていたわ。そしてイランのメンバーが「私たちは必ず回復する」を朗読して、ミーティングは閉会した。2015年にブラジルで開かれるWCNA36が待ちきれないわ。また、リオで会いましょうね！

シェリー・S（アメリカ合衆国/ネバダ）

床からのコメント

会場は満席だったため、おれたちは演台のそばの床に座ってグループをつくった。このグループではテーマについて全員がわかちあえたから、おれはフラッシュグループのミーティングがもっとたくさんあればいいのっていう気持ちをわかちあった。水曜の朝からコンベンションに来て、いろんなミーティングやワークショップやイベントに参加してはいたけど、ミーティングでのわかちあいができずにいたんだ。こういうセッションは、自分がどう思っているか、どんなことを経験しつつあるかについて話すにはまたとない機会になった。イランから一緒に来た仲間は、このミーティング

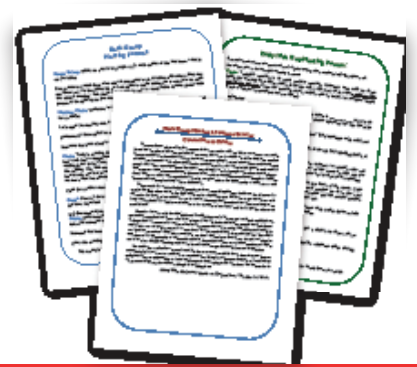
の形式がすごく気に入ったので、イランに帰ってから使うつもりでいる。

フラッシュグループでおれが感じたのは、会場を満たすエネルギーと愛の信じられないくらいの高まりだ。おれは、そういう場にいることにワクワクした。それから、ミーティングのお終いにおれはマイクを手渡されて、「私たちは必ず回復する」を朗読した。いやはや、素晴らしいコンベンションだった。こういう旅ってあるんだな。この2週間というものニューヨークとフィラデルフィアでNAの回復にどっぷりとひたり、その1秒1秒がなんとも愛おしくてならなかったよ。

シバッシ・J（イラン/テヘラン）

元気が出る

WCNAでは、僕は何人かの仲間と土曜のフラッシュグループミーティングに参加した。かなりワクワクする体験だったよ。僕は15分前に会場についたんだけど、ほとんどのテーブルがすでに満席だった。みんな、床に座れそうな場所を見つけて、それぞれにグループをつくりはじめた。ほとんどが8人程度のグループだったから、べつに急かされていると感じることもなく、だれもが5分そこらはわかちあうチャンスがあった。僕のグループには、ニューヨークと、コネチカットと、フロリダからのメンバーたちがいた。知らないもの同士



Click here for these meeting formats and literature excerpts.

でその場かぎりにできたグループにいるってことで、みんな、性格の合わない相手がいたりするところでは話しにくいこともたまたまに話すことができたようだ。僕もほんとに、そういうセッションにもっと参加できなかったことが残念でならない。一緒に回復を祝おうとやってきた人たちみんなの仲間意識にふれて、すごく刺激になったよ。WCNAで経験したことは何から何までがまったく素晴らしいものだったから、ぼくはすっかり元気になった。それは、地元のミーティングに戻っても変わらないよ。

ビル・S (アメリカ合衆国/ニュージャージー)



ザ・ジャーニー・コンティニューズ WWCNA35にまつわる 物語

日曜の朝のことだった。俺がホテルの外に立ってタバコを吸っていると、男が近寄ってきてタバコをせびり、「あそこで何をやってるんだい」と聞いた。NAのコンベンションのことと俺たちの目的を説明してやると、男はどうすれば参加できるのか知りたがった。ニューカマーパッケージはもう残ってないし、男には金があるわけないし。それで俺は、男をマラソンミーティングの会場まで連れて行ってやったんだ。でも、男はもっと話をしたいみたいだったので、ふたりきりになれる場所を見つけた。男は、こんなに苦しいのに、使うことをやめられないんだと言った。それでも話を聞いたことで、男の苦しみをいくらか和らげる助けになれた。俺は、どう言えばいいのか、よくわからなかったが、とにかく心から語りかけた。そして、男はミーティングの会場に足を踏み入れながら、一日中ここにいるよ、使いたくないからなと言っていた。それがわかっていれば大丈夫だろう。ジム・L (アメリカ合衆国/ニューハンプシャー)



WCNA35にはあたしがギュッと抱きしめたい瞬間があった。たぶん、あたしの人生でもっとも強烈な瞬間のひとつだったんじゃないかしら。あたしの親友の一人で、先週リラプスした仲間が、コンベンションの行われている土曜日にやってきたのよ！ クリーンタイムのカウントダウンで24時間というコールがかかったときには、あたしたちはこの仲間を椅子に乗せて抱え上げたわ。この仲間は絶望して自分を見失ってしまっていたのよ。それが、あの瞬間に、このプログラムの精神と神がこの仲間に宿るのを目のあたりにしたんだもの。この仲間は（ここ何週間も目にしたことがなかったような）真のほほえみをたたえて、天を見上げていたわ。ひとりじゃダメだけど、仲間がいればできるのよね！ ジェシカ・D (アメリカ合衆国/ペンシルバニア)



おれは、クスリに溺れていた最後の5年間に上の歯がダメになっちゃったから、入れ歯をしてるんだ。それで、入れ歯がゆるんだときのために粉末の固定剤を持ち歩いてるわけだが、それはおなじみの小さなアルミのピルケースに詰めてキーホルダーに取りつけてある。WCNA35に行ったとき、おれは車を駐めてから駐車場の係員に鍵をキーホルダーごと預けたんだよ（ここまで話せば、もうほとんどオチが見えてきたろう）。そして家に戻ってみると、粉末は9割方なくなっていた。フリー（フィラデルフィアの愛称）のどこかに、しめしめと思ったはいが、当てがはずれた駐車場係がいるってわけだ。入れ歯固定剤で鼻腔がふさがれたとあっちゃ、スカッとすどころじゃなかっただろうさ。マット・K (アメリカ合衆国/ウェストバージニア)



今回が、ボクのワールドコンベンション初体験だった。これまでNAでいろんなイベントに参加したけど、あんなに多くのことが伝わってきたことなんてなかったな。ボクは英語がうまく話せないのだから、これはもう驚くべきことだった。自分のスポンサーシップファミリーと一緒に参加していたので、この事実によってもたらされた感動はさらに深まった。一体感を覚えたし、まさにNAの一員なんだという実感がした。こうやって愛に満ちた集まりの一部になっているって思えるのは、奇



Photos: Jessica D, Pennsylvania, USA, and Sagar J, New Jersey, USA

跡だ。もうすっかり元気になったよ。神とNAに心から感謝する。アレキサンダー・M (ロシア/サント・ペテルブルグ)

WCNA35では、ロシアの仲間たちの何人が、わたしのトレーナーにロシア語と英語でサインをしてくれた。世界中からやって来た仲間たちには、愛があるのがわかる。ハグすれば、スピリチュアルなつながりを感じるもの。これは、一生の思い出になるわ。そして今回のWCNAでわたしにはもうひとつ、すばらしい思い出ができた。わたしは息子と一緒に使っていたのだけど、息子は投獄されて2014年の6月まで出られない。そしてこの1年半近くは、わたしがこうして信じられないような旅をしているのを見てきた。自分もアディクトだと認めてるけど、変わろうという気持ちにはなっていなかったわ。その息子が、コンベンションの間に電話してきたの。「なんだよ、えらい騒ぎだな。パーティーでもやってるのか?」と言うので、「あのね、わたしはフィラデルフィアにいるのよ。20,000人近いアディクトたちと一緒に。みんな、世界中からやって来たのよ!」と言った。そう言うなり、わたしが泣き出したので、「大丈夫かい?」と息子が聞いた。「自分がどんな思いをしてきたかということをよくわかっている人たちと、こんなにたくさん出会うなんて、何ていいかわからないわ」とわたしは答えた。すると、息子は「へえ〜、そりゃすごいや。オレも一緒にいたかったな」と言ったの。2015年にWCNA36があると伝えると、「そうか、一緒に行けたら最高だな」と言っていた。リオに行けば息子にもわかるだろうから、それまでのお楽しみとしておこう。

アンジェラ・B (アメリカ合衆国/ノースカロライナ)

あたしは、WCNA35でエンターテイメントのサービスに関わるという機会に恵まれた。働きづめでヘトヘトになる日が続いたけど、すごく楽しかったわ。そして日曜のユニティデイのミーティングが終わるまで、あたしは自分の責任をまっとうした。全部終わって、会場のホールを通り抜けていくと「プラウド・メアリー」が流れていた。やだ、これって、あたしがスポンサーからの電話の着メロにしてる曲じゃない! よりによって、あたしが信頼されるしもべとして役割をきちんとまっとうしたあとに流れてくるなんて、スポンサーがそこにいて思いやってくれている気がした。胸がいっぱいになって、涙がこぼれてきたわ。だからもう、すぐさま、隅の方に静かな場所を見つけてスポンサーに電話したの。あたしより先につながってNAの存続に役立つことをやり始めた人たちに、心から感謝するわ。だってそのおかげで、あたしも同じことをやらせてもらったの。そしてどんなに疲れていても、身なりをきちんとして足を運び、ベストを尽くして一歩また一歩と歩みを進めていくことを教わった。あたしのことを信頼して、あたしにもできると信じてくれた人たちに心から感謝する。仲間は、あたしの兄弟だし、姉妹だし、友だちなのよな。

モニカ・V (アメリカ合衆国/テキサス)

(注)「プラウド・メアリー」は休みなく動き続ける川船の名前で、クリデンス・クリア・ウォーター・リバイバルのヒット曲。

コンベンション初体験の一日目が終わった。一日中ずっとスピーカーのわかちあいや仲間との交流に明けくれたので、僕とガールフレンドはまだ興奮がおさまらなかった。ダンス会場からホテルの部屋に戻っても、お開きにするのがもったいなくて、ロシアのスピーカーのひとりが話していた習慣に従うことにしたんだ。あの仲間は、コンベンションに行く「ディスコで夜明けかする」という話をしていて。そこで、午前2時に、僕たちは音楽をかけて部屋のバルコニーを「ディスコ」にして、そのままNAの60周年と世界中の仲間が心をひとつにすることを祝い続けた。ダンスではじけて笑い転がっていると、向かいのビルにWCNA35のネオンサインがあるのに気づいた。そのネオンサインが途切れる間、僕たちもダンスをやめる。そうやってネオンのきらめきにあわせて踊ったんだ。

ブランドン・C & ニコール・M (アメリカ合衆国/ペンシルバニア)

差出人: アマル・A (バーレーン王国)

日時: 2013年9月4日(水)

宛先: NAワールドボード、WCNA35ワークグループ、NAワールドサービスのみなさん

件名: WCNA35

みなさんは世界中のNAのために尽くしてくださっています。だからこそ、このプログラムが60年にわたって成功を収めたのだし、それを祝うために第35回NAワールドコンベンションのようなイベントにそれだけの仲間たちが集まったのでしょ。そういうことすべてに対して、この場をお借りしてあらためてねぎらいとお礼を申し上げたいと思います。それによって、みなさんに対する敬愛と感謝の気持ちは、ここアラビア湾岸地域では並々ならぬものであることを再確認していただければ幸いです。私たちはいつもみなさんのことを心にとめて、ご活躍をお祈りしています。NAにつながってよいといまも今も苦しんでいるアディクトたちに回復のメッセージを運ぶなかで、わたしたちみんなに神のお恵みがありますように。こんなことは、ひとりではできないことではありません。みなさん、本当にお疲れさまです。アラーがいつもみなさんと共にありますように。

差出人: 英国ダーラム女王陛下の刑務所

日時: 2013年9月2日(月)

宛先: NAワールドサービス

件名: ワールドユニティデイ

HMPダーラム(英国ダーラム女王陛下の刑務所)が、NAのワールドユニティデイに英国から初めて参加する刑務所となることによってわずかながらでも歴史的な偉業を成し遂げられたのは、みなさんのおかげです。ありがとうございました。とても謙虚な気持ちにさせてもらえる経験でした。だからこそ、私たちは最初から最後まで参加できたのです。技術的な問題があった(みなさんには私たちの声が聞こえなかった)にしる、私たちはシャウトアウトに参加しましたし、みなさんの歓声もちゃんと聞こえましたよ。あらためてお礼を申し上げるとともに、ぜひ、また参加できればいいと思っています。最後に、ユニティデイで私たちがシャウトアウトした内容をお伝えしておきましょう。

やあ、みんな、WCNAへようこそ! 俺たちは、イングランドのダーラム女王陛下の刑務所でアイ・ウィング・リカバリー・センターにいる仲間だ。こうして世界にメッセージを送るために集まって心をひとつにすることで、NAの歴史やコンベンションの一部になれることを光栄に思っている。もう、ひとりぼっちじゃないんだ。アディクションとはきっぱり縁を切ろう! 刑務所や矯正施設で終わるか、さもなきや死ぬしかないような生き方をするなんてまっぴらだ! 12のステップと、スピリチュアリティ、回復を喜んで受け入れよう! 忘れちゃいけない。やればできるんだ。やらなきやそれでおしまい、負けなんだ!

差出人: フマン・Hおよびエーサン・R

NAイラン、リージョン代表団

日時: 2013年9月4日(水)

宛先: NAワールドサービス

件名: ワールドユニティデイ

私たちはNAイランの代表として、NAワールドユニティデイのイベントと電話中継に対してみなさんにお礼を申し上げたいと思います。みなさんは、NAの仲間たちのために素晴らしい仕事をしてくださいました。その努力に心から感謝いたします。

.....
Electronic subscribers
can click here for additional content.
.....

フェローシップ ディベロップメント： 資源と関係

この連載記事では、NAが世界的に成長して変化していくさまざまな方法を探っていくことになる。フェローシップディベロップメント(FD)は、なにも「よその国」で行われるものとは決まてはいないし、新しい場所でNAを始めるというだけのものでもないのだ。NAではいたるところにフェローシップディベロップメントの機会があるので、メンバーやサービス機関は絶え間なく活動している。それによってNAを成長させて強化し、私たちの第一の目的を実現しようとしているのだ。NA Wayマガジンではこれからもひきつづき、世界中のさまざまな地域にあるNAで行われているFDに関する経験をお伝えしていく。今月号では、2つの成熟したNAによる成功例を検討するとともに、ひとつの大陸にあるいくつかのNAの統一と成長についても見ていこう。(14ページの『アフリ大陸ゾーナルフォーラム』をご覧ください)

みなさんのNAでFDに関する経験やアイデア、成功例などがあれば、NA Wayマガジンの誌面で世界中のNAにわかちあえるように、naway@na.orgへお知らせいただくとありがたい。

ミネソタに吹く「新しい風」

古いことわざにあるように、「新しいことに挑戦しなくては人間は成長しない」。NAが提供するサービスは、相互に関係のある4つの資源から発生する。それは時間、テクノロジー、人材、資金である。革新によってこの4つの貴重な資源を活用することができれば、さらに多くの人たちに効果的に効率よく手をさしのべていけるのだ。

Narcotics
Anonymous
Minnesota Region



自分のやり方から抜け出すこと

NAミネソタリージョンにみられる最も革新的な変化は、サービスの提供を再考したことだと言えるだろう。委員会が機能していなかったのは、ほかの人たちが無関心であった(言うなれば、共感が得られなかった)からだと主張して自分たちの責任を免れようとはせず、あえて自らに問いかけたのだ。本当にそうなのか?あるいはそれもやっぱり何もしないことや他人を非難するための言い訳でしかないのではないか?そしてもし、次のような事実が自明であるかのように行動したらどうなるだろうか?

- ・NAメンバーたちはメッセージを運びたいと思っている。
- ・NAメンバーたちは人の役に立ちたがっているし、状況を変えたいも思っている。
- ・ほとんどのNAメンバーが委員会には出席したくないと思っている。

2008年のミネソタリージョンはご多分にもれず苦境に陥っていた。サービスの役割につく者がいないことによってサービスの提供がまったくに等しく、テクノロジーは時代遅れで、リーダーシップもうまく発揮できないでいたのだ。しかし、1990年代後半にはNAワールドサービスによる構造改革が成功したのだから、これに続けとばかりに、NAミネソタでも計画性のあるサービスのシステムに移るといった考えが生まれた。リージョンでは役割を埋めるために人を選ぶというのではなく、やるべきことを決め、さまざまなプロジェクトを実行するために人材を求めようになった。こうして常任理事会は消滅した。メンバーたちはもう、自分たちがどこに住んでいるか(田舎、都市、郊外)に関係なく、さまざまなプロジェクトに携わることによってほかの人と0デアをつぶしてしまおう」ということだった。

プロジェクトに基づいたサービスシステムは2009年に一時的に承認され、その後、効果があるとわかってミネソタ州全体にサービスを提供していく永続的な方法として再確認された。プ

ニングとプロジェクトによって、NAミネソタは自分たちのもてる力に見合ったサービスを提供できるようになった。別のメンバーの言葉を借りれば、「部屋に8人いるなら、8人でできる仕事をしようじゃないか」というわけだ。サービスに関するプロジェクトは現在、年一回のリージョンのアssenブリで合意された優先順位に焦点が絞られている。このアssenブリは「私たちの共通の福利をつくりだす」と呼ばれているが、これ以上のネーミングはないだろう。

時間やテクノロジー、人材、資金という私たちの貴重な資源をさらに有効活用すれば、私たちのプログラムによってもたらされるはずの自由に一歩近づく人たちが増えるのだ、と私たちは固く信じている。

モンティ・J

(アメリカ合衆国/ミネソタ リージョン代表)

“Wouldn't it be cool if...” Read more about innovative ideas and service delivery in the next issue.

つながりがなければはじまらない

私たちのリージョンでは、フェローシップディベロップメントによる取り組みの多くが地域の専門家との関係を築くものになっている。このためリージョンの広報委員会では、コロラド州矯正局(DOC)との関係を築いて維持するために矯正施設の窓口を設けたほか、地元のドラッグコートや治療センターとも関係を結んでいる。このような関係ができることによって、地域社会のなかでまだ苦しんでいるアディクトたちにメッセージを運ぶことや、NAが実行可能な回復のプログラムであるということを広く伝えることができるのだ。

...at WCNA 35, Colorado prisoners joined other prisoners around the world on the call.

コロラドリージョンは、2012年にウェスタンサービスラーニングデイ(WSLD西部サービス研修会)を主催し、そのなかでDOC(コロラド州矯正局)と地域社会で活動する治療の専門家に向けたシンポジウムを開いた。私たちがDOCと関係を結んだことにより、シンポジウムには50人ほどの専門家が参加した。そこにNAワールドサービスとコロラドリージョン広報活動委員会が同席し、それぞれが関わっているアディクトたちのためにNAがどのように役立っているかをわかちあった。専門家からは、NAにアディクトを送りこむことにもつわる経験がわかちあわれた。多くは成功談を語るものだったが、ある女性判事は自分の話をしてくれた。アディクトたちがNAに参加してクリーンになることで立ち直っていく様子を目の当たりにしてきた経験を、心を込めて語ってくれたのだ。そして目に涙をためながら、私たちは同じ戦いに挑む戦士なのだと思っているし、アディクトたちをNAに向かわせる判事が一人でも増えることを願ってやまないと言っていた。

サンディエゴのWCNA34では、土曜朝のユニティデイのミーティングに先立ってカリフォルニア州にある刑務所が紹介された。あの場で呼び出しに参加したメンバーなら覚えているだろう。収容者たちが電話による中継で大声で挨拶してくれたときには、胸がいっぱいになった。まわりのだれもが目に涙を浮かべていた。WCNA34を締めくくるスピーカーミーティングで話された経験と力と希望が、扉の向こうにいるアディクトたちにも共有されたのを実感したからだ。

そしてコロラドに戻ってから、どうして自分たちのリージョナルコンベンションではこのようなことが行われなかったのか、とリージョンの広報委員会は不思議でならなかった。私たちのリージョンにはすでに、リージョナルサブコミティ(リージョンの小委員会)で利用できるカンファレンシング・テクノロジーがあるし、広報委員会にあるDOCの窓口はコロラド州の刑務所と良好な関係を築いているではないか。というわけで、DOCの窓口が刑務所の代表者たちと会談してカリフォルニア州のようなことが可能であるかどうかを話し合った。議論を重ねながら多くのボランテ

ィアが調整に尽くしたことにより、コロラドリージョナルコンベンションで日曜の朝に開かれるミーティングに刑務所が参加する準備が整ったのだ。

あの日曜の朝には、コロラドで扉の中にいるアディクトたちが回復のメッセージを耳にしたことで、みんながあふれんばかりの喜びをわかちあって涙した。刑務所の多くが州のへんぴな地域にあるため、H&Iのサービスは提供されていない。そうやって孤立したところにいるアディクトたちがNAの回復のメッセージを耳にするのは、今回が初めてのことだったといっても言い過ぎではないのだ。

そうなると次は、WCNA35で行われるユニティデイにコロラド州の刑務所を呼び出すことを目指そうということになった。これについては、DOCの窓口がワールドサービスや刑務所と協力してお膳立てをした。そして、WCNA35でユニティデイのミーティングが開かれている間に、コロラド州の囚人たちと世界中の囚人たちとが電話回線によってつながったのだ。こうしてまたもや、私たちがサービスに取り組んだ結果、ひとりじゃないんだというメッセージを耳にするアディクトが増えることになるなんて、信じられないような思いだった。

コロラド州矯正局との関係を深めていくなかで自分たちが取り組んできたことの成果をまざまざと目にするによって、これからは矯正関係にかぎらず、ほかにも地域社会で活動する専門家との関係を築くためにこれまでの経験を利用しようという気持ちにさせられた。私たちがこれから重点を置くことは、医療関係者である。こうして自分たちの命を救ってくれた贈り物をコロラド州のまだ苦しんでいるアディクトたちとわかちあおうとしているわけだが、それもひとえに、サービスに取り組むなかで築いてきた関係があつてのことなのだ。そう思うと、本当に感動で胸がいっぱいになる。

サービスに心を尽くしつつ
コロラドリージョン広報委員会





2013 Membership Survey

Every two years we attempt to gather information about our members, and the time to gather that information is now! Some may wonder why we want this information and how we use it. One of the aims of “A Vision for NA Service” is that NA is viewed as a “viable program of recovery.” With members from 50 countries attending the world convention in Philadelphia, and members around the world participating from their homes, we have an opportunity to demonstrate that we are, indeed, a viable and respected recovery community resource. Presenting ourselves in this way helps us offer hope to others that they, too, can recover. We encourage each member to spread the word of the Membership Survey to their friends. We would like as many members as possible, throughout NA worldwide to participate.

1a. Country of residence (Check **one** only)

- a. USA
- b. Canada
- c. Japan
- d. United Kingdom
- e. Brazil
- f. Sweden
- g. Russia
- h. Other: _____

1b. State/Province of residence (if applicable)

2. Gender

- a. Male
- b. Female
- c. Other: _____

3. Age _____ years

4. Race

- a. Black (of African descent)
- b. White (Caucasian; or of European descent)
- c. Latino, Hispanic
- d. Asian (including Indian subcontinent) or Pacific Islander
- e. Indigenous
- f. Multi-racial
- g. Other: _____

5. Highest educational level completed

- a. High school/Secondary school
- b. Trade school/Two-year degree
- c. College/University degree
- d. Advanced University degree
- e. None of the above

6a. Employment status (Check **one** only)

- a. Homemaker (go to #7a)
- b. Employed full-time
- c. Employed part-time
- d. Retired (go to #7a)
- e. Unemployed (go to #7a)
- f. Student

6b. Primary type of work (Check **one** only)

- a. Manager/Administrator
- b. Educator
- c. Medical/Health Professional
- d. Addiction Treatment Professional
- e. Other Professional (government, finance, etc.)
- f. Technical/IT Professional
- g. Sales/Marketing
- h. Craft Worker/Artisan/Trade
- i. Laborer/Service Industry
- j. Clerical/Administrative Assistant
- k. Transportation Industry
- l. Other (including self-employed)

7a. Do you have a sponsor now?

- a. Yes
- b. No

7b. Are you sponsoring others?

- a. Yes
- b. No

8. What service commitments do you have in NA?

(Check **any** that apply)

- a. Hospitals and Institutions (H&I)
- b. Public Information/Public Relations (PI/PR) and/or Phonelines
- c. Meeting (secretary, treasurer, coffeemaker, etc.)
- d. Area service
- e. Regional service
- f. World service
- g. None

9. How often do you usually attend NA meetings?

(Please answer **one** only)

- Weekly: _____ times
- Monthly: _____ times
- Yearly: _____ times

10a. Do you attend meetings of any other twelve-step fellowships?

- a. Yes (If yes, go to #10b)
- b. No (Go to #11)

10b. Which twelve-step fellowships do you attend?

(Check **any** that apply)

- a. AA
- b. CA
- c. GA
- d. OA
- e. Nar-Anon
- f. Al-Anon
- g. Other: _____

11. Do you have any family members in a twelve-step recovery program?

- a. Yes
- b. No

12a. Which drug was the MAIN drug you used?

(Check **one** only)

- a. Alcohol
- b. Cannabis (pot, hashish, etc.)
- c. Cocaine
- d. Crack
- e. Ecstasy
- f. Tranquilizers (Klonopin, Valium, Xanax, etc)

- g. Hallucinogens (LSD, PCP, etc.)
- h. Inhalants (glue, nitrous oxide, etc.)
- i. Opiates (heroin, morphine, etc.)
- j. Opioids (Oxycodone, Vicodin, Fentanyl, etc.)
- k. Stimulants (speed, crystal meth, etc.)
- l. Methadone/Buprenorphine
- m. Prescribed medication

12b. What drugs did you use at any time on a regular basis? (Check **any that apply)**

- a. Alcohol
- b. Cannabis (pot, hashish, etc.)
- c. Cocaine
- d. Crack
- e. Ecstasy
- f. Tranquilizers (Klonopin, Valium, Xanax, etc.)
- g. Hallucinogens (LSD, PCP, etc.)
- h. Inhalants (glue, nitrous oxide, etc.)
- i. Opiates (heroin, morphine, etc.)
- j. Opioids (Oxycodone, Vicodin, Fentanyl, etc.)
- k. Stimulants (speed, crystal meth, etc.)
- l. Methadone/Buprenorphine
- m. Prescribed medication
- n. Other: _____

13. When is your clean date?

_____ / _____ / _____
Month Day Year

14. When was your first NA meeting?

_____ / _____
Month Year

15a. Have you returned to using drugs at any time since you began recovery in NA?

- a. Yes (If yes, go to #15b)
- b. No (Go to #16)

15b. If yes, how many times have you relapsed? _____

15c. At the time of your relapse(s), were you

(check **any** that may apply)

- a. Actively attending meetings
- b. Maintaining contact with a sponsor
- c. Being of service to NA

16. Check the three most influential entities in your decision to come to your first NA meeting

(Please check **only three**)

- a. NA member
- b. NA literature
- c. NA service efforts (H&I, PSA, Phoneline)
- d. Correctional facility
- e. Nar-Anon member
- f. AA member or group
- g. Treatment facility/Counseling agency
- h. Family
- i. Non-NA friend or neighbor
- j. Healthcare provider
- k. Court order/Drug court
- l. Probation or parole officer
- m. Employer or fellow worker
- n. Newspaper, magazine, radio, or TV
- o. Member of clergy
- p. School counselor, teacher, or administrator
- q. Other: _____

17. What influences made you want to stay in NA?

(Check **any** that apply)

- a. Identification with members in a meeting
- b. A welcoming, supportive group
- c. Sponsor
- d. NA literature
- e. Service commitments
- f. Other NA members
- g. NA events
- h. Other: _____

18. How important do you think your first NA meeting was in getting/staying clean? (Ranging from 1 as "not at all" to 5 as "very," please circle your choice)

- | | | | | |
|------------|----------|----------|----------|----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| not at all | | | | very |

19. Before beginning your recovery in NA, were you... (Check any that apply)

- a. Employed?
- b. Able to retain your own place of residence?
- c. Capable of supporting your family?
- d. Maintaining family relationships?
- e. Able to preserve a committed, intimate relationship?
- f. None of the above

20. Since coming to NA, what areas in your life have improved? (Check any that apply)

- a. Stable housing
- b. Employment
- c. Education advancement
- d. Social connectedness
- e. Family relationships
- f. Hobbies/Interests

21a. Are you currently taking prescribed medication?

- a. Yes
- b. No
- c. Choose not to answer

21b. What are you taking this medication for? (Check any that apply)

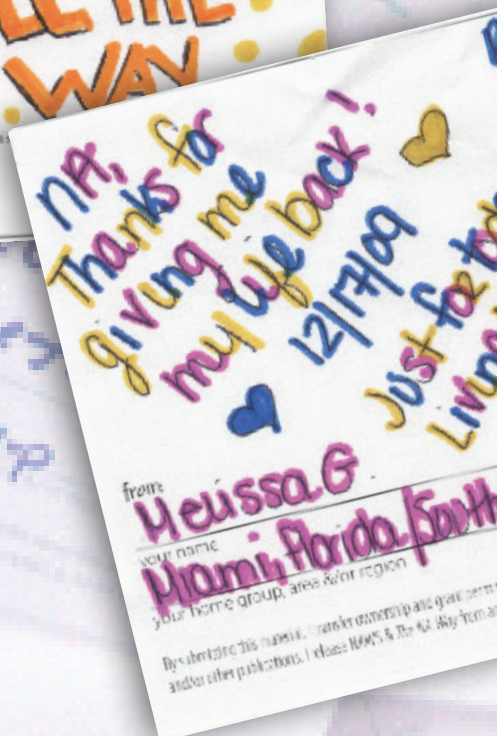
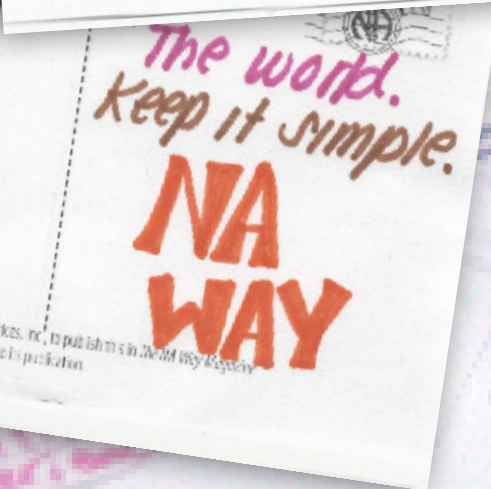
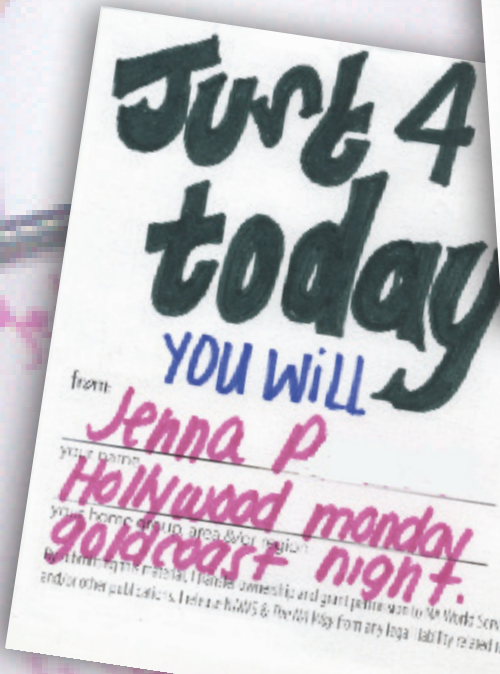
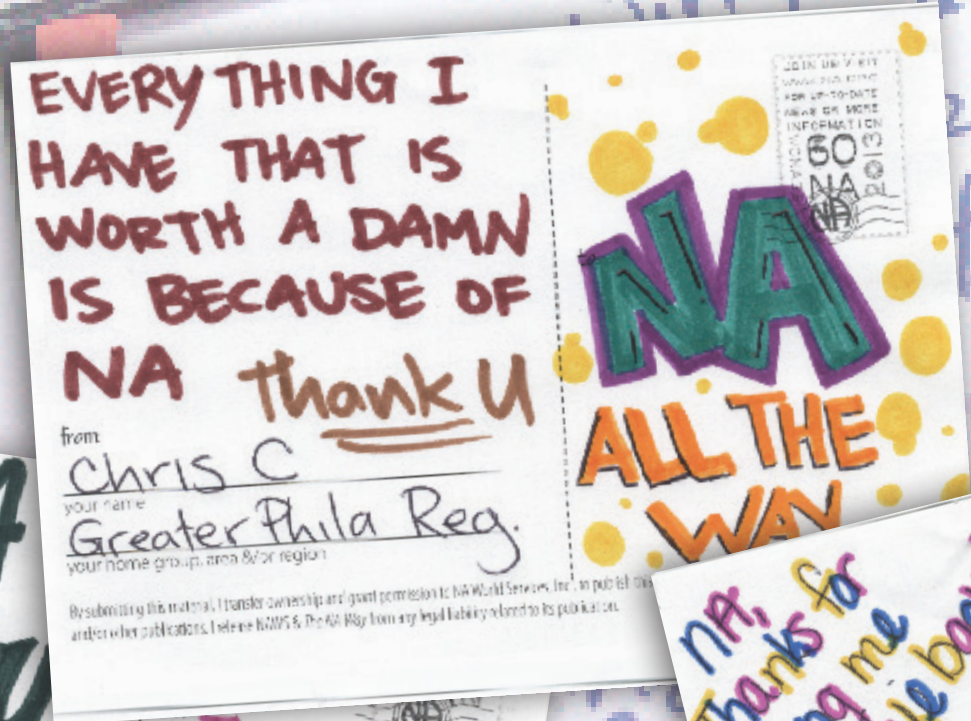
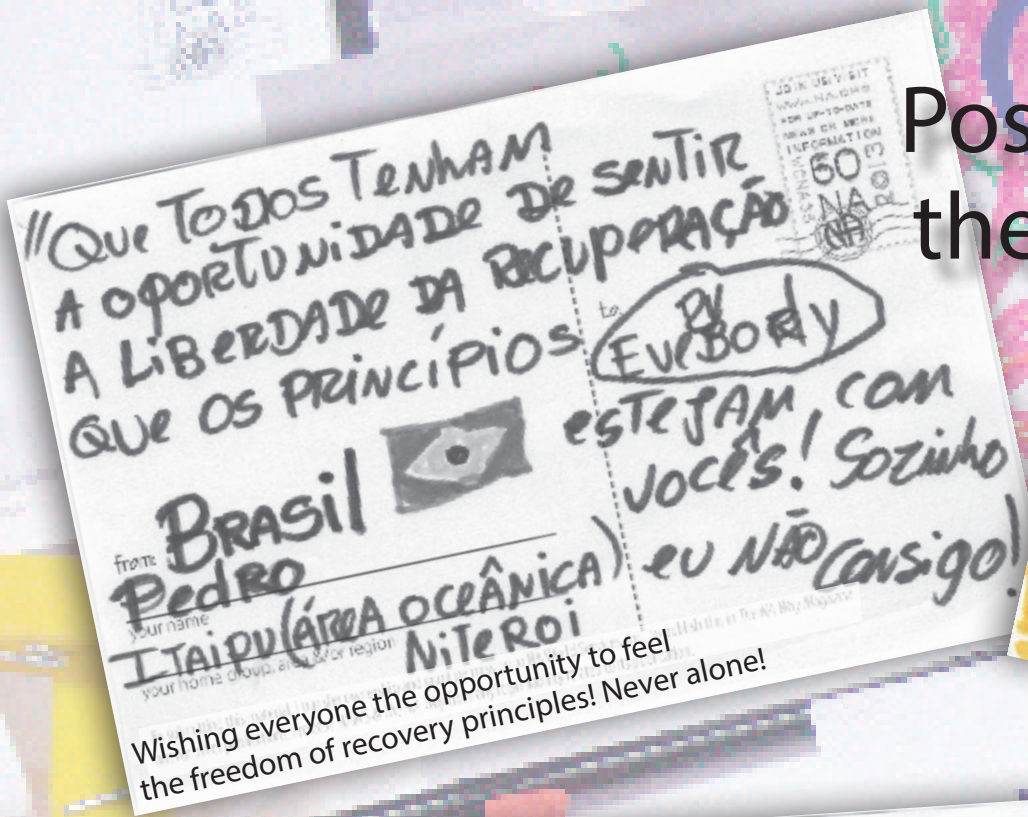
- a. Mental health issues (depression, anxiety, bipolar, etc.)
- b. Short-term medical condition (surgery, broken bones, dental work, etc.)
- c. Chronic health condition (Hepatitis C, AIDS, cancer, etc.)
- d. Drug replacement (methadone, suboxone, buprenorphine, etc., used to treat addiction)
- e. Medical maintenance of health issues (blood pressure, thyroid, hormone replacement, etc.)
- f. Other _____

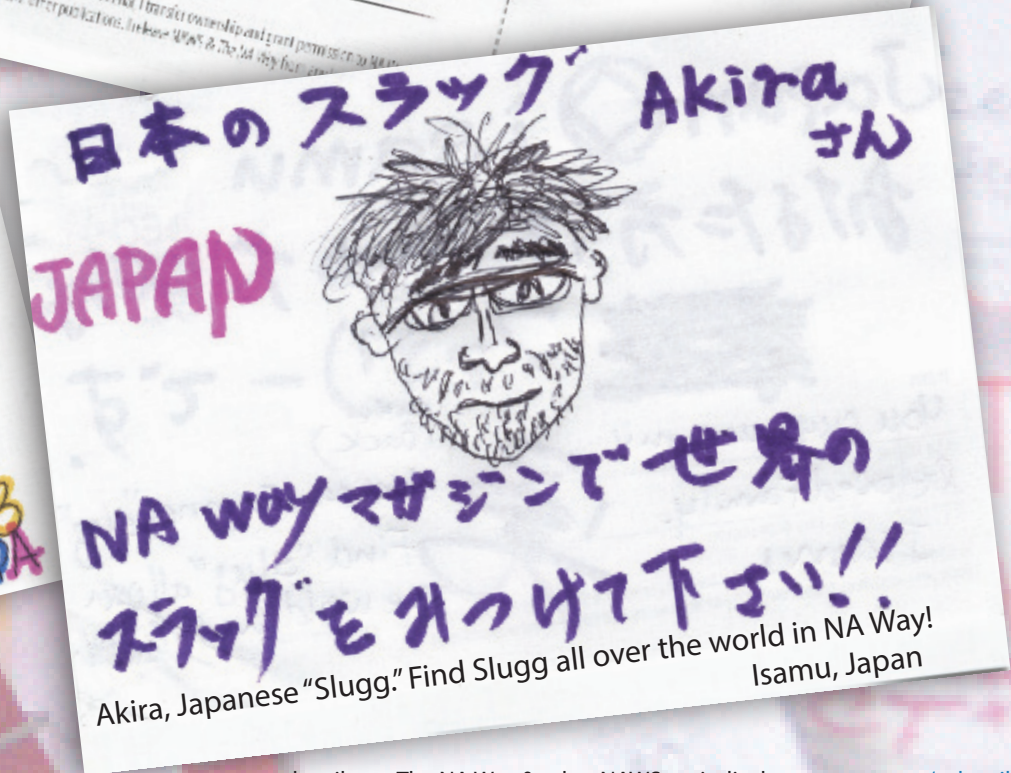
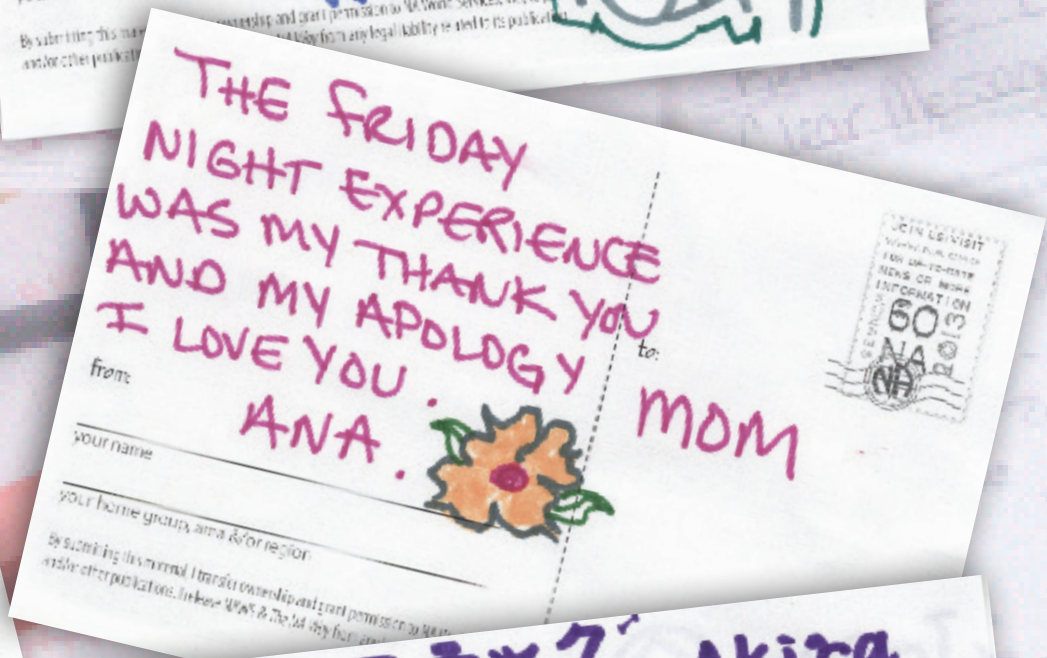
You can help by emailing the link for the online version or by distributing paper copies of the survey, collecting the responses, and mailing or faxing them to us.

To complete the survey online, go to

<http://www.na.org/survey>

Postcards from the Fellowship





アフリカ大陸ゾーナルフォーラム

2013年の5月にタンザニアのダルエスサラームで開かれた2つの集会は、アフリカ大陸と世界中からNAメンバーたちが集まってNAの歴史に刻まれるものとなった。最初に開かれた集會では、アフリカの11の国々を代表するNAメンバーたちが一堂に集まって、アフリカのNAを支援して育てることに力を注ぐものとなるアフリカ大陸ゾーナルフォーラムが誕生した。ここでは、誕生間もないAZFについて共同の議長や何人かのメンバーの経験がいつまでわかちあわれているほか、アフリカで最も古いNAのひとつである南アフリカにみられるNA発展の歴史の一部も語られている。そして最後を締めくくる記事は、第1回東アフリカNAコンベンションに関する連載の1回目となっている。

AZFの成り立ち アン

2012年のワールドサービスカンファレンスが終わってから、ゾーナルフォーラムの役割と将来について世界中で議論が活発になったでしょ。とくに、サービスシステム改革案のことを踏まえた議論がね。このようなことから、私は、ヨーロッパ・デリゲート・ミーティング（EDM・ヨーロッパ代表会議）への自分たちの関わりを自問するようになったのです。南アフリカはEDMの一員になって2～3年経つけれど、それはせいぜい半年ごとの活動報告を提出するというでしかありません。苦しい財政状態ゆえに、会議には参加していないのです（ただし、2009年の夏にバルセロナで開かれたEDMの会議には、リージョン代表が出席することができました。その時期に開催されたWCNA33に参加することになっていましたからね）

そんなことに考えを巡らせていたのと、アフリカのNAの成長を促すことに力を注ぎたいという気持ちもあって、私はリージョナルサービス委員会に出席したときに、アフリカというゾーンをつくる可能性についてNAワールドサービスと話し合ってみてはどうかと問いかけたのです。

そして2012年の11月に、私はNAWSにEメールを送って話し合いを始めました。あのころ、私たちのNAではケニアやナミビアやジンバブエのNAと情報交換をしていたし、それまでもナミビアとボツワナには文献を献品してきました。それで、NAWSは2012年の12月に、南アフリカとケニアとジンバブエのメンバーを集めることによって支援できるだろうと言ってくれたのです。

あのとき、私は知らなかったのだけど、ケニアもワールドサービスとやりとりをしていたし、東アフリカコンベンション実行委員会でもコンベンションのいくつかのワークショップの進行をNAWSに依頼していたんですよ。これはまさしく、ハイパーパワーによる絶妙なはからいを物語るものでしょう。だって、NAWSの代表者たちにすれば、東アフリカまで行くなら、ダルエスサラームで私たちと会談することにしようと思うだろうし、それによって、ひ

とつでも多くのアフリカのNAに手をさしのべることができるというわけです。

ジョスファット

それまでの5年間で、アフリカのNAはかなり分散してしまっただけです。その間には、多少なりとも機能していたNAが、NAグループやNAそのものの誕生を支援していました。ケニアのNAは、同じ東アフリカのNAを可能なかぎり支援してきました。それとともに、アフリカ大陸でのNAメンバーの交流を広げてきたし、それによって南アフリカのNAやNAワールドサービスとのつながりもできていました。ぼくは、南アフリカのウェスタンケープ州のメンバーとナイロビで会って話しをするようになり、それからスカイプの会議に参加して、南アフリカのリージョン代表やNAワールドサービスのスタッフたちとアフリカでのフェローシップディベロップメント、ホームグループのスポンサーをすること、アフリカンゾーンをつくることなどについて話し合うようになりました。こうして、アフリカ大陸ゾーナルフォーラムの基盤ができていったんです。

リアン

私は、アフリカの国々のメンバーたちをこの会議に招待するのにEメールを出すまで、アフリカにはこんなに多くの国にNAが存在するということを知りませんでした。それは、一度でも会議を開いてみればわかります。ひとつの出会いが次の出会いにつながって、アフリカのNAの数は一気に倍になっていくのです。そういうことを目の当たりにするのは素晴らしいことでした。南アフリカとケニアとジンバブエの間で発展性のある会議として始まったものが、2日間にわたる集會となって、アフリカの11の国々や地域から19人のNAメンバーが出席し、さらにはNWASのスタッフ2名とワールドボードのメンバーも1名参加してくれたんですからね。

ジョスファット

つまり、ぼくたちが日時と場所を決めて招集をかけたなら、全員が次々と自分たちの知っている国を招待するという雪だるま現象がおこり、2013年の5月16日～18日には11か国からの代表がタンザニアのダルエスサラームに集まりました。それでも、その場で、アフリカ大陸ゾーナルフォーラムが誕生

したのです。それ以来、ぼくたちは月に1回スカイプによる会議を開いてきました。経験と力と希望をわかちあひながらサービスシステムの確立に取りかかっているんです。いずれサービスシステムが確立すれば、アフリカ大陸全土でのフェローシップディベロップメントは順調に進んでいくでしょう。

リアン

ああして5月に開かれた会議以来、私たちはEメールや月1回のスカイプ会議によってなんとかつながりを保っているというのが現状です。残念ながら、全員がスカイプを利用できるわけではないけれども、私たちはできるかぎりのことをしていくつもりです。アフリカでのインターネット接続は非常にのろくてエラーが多いとしてもね。今のところ、私たちの会談ではしっかりしたホームグループを育てること、信頼されるしもべたちのグループをつくること、ビジネスミーティングのやり方を検討することなどに焦点を当てています。つまり、どうすれば自分たちの地域にあるNAをしっかりと育てていけるのかということについて、お互いの経験をわかちあっているのです。

ジョスファット

ヨーロッパ・デリゲート・ミーティング（EDM）から支援を受けられたことと、最近スペインのマルベラで開かれたEDMに出席することができたことに、ぼくたちは心から感謝しています。これからも、サービスに関わることによって、希望のメッセージと新しい生き方、つまりNAの生き方を伝えることに力を注ぎ続けていきたいですね。いつの日か、このアフリカにあるどんな村や町や都市でも、どんな言語でも、NAのミーティングが開かれるようになるのが、ぼくたちの未来像なんですから。

リアン

そもそも、NAワールドサービスによる支援や世界中のミーティング場で回される献金袋に入れられるお金がなければ、こんなことは私たちにはできなかったでしょう。私たちが共に成長していくことで、アフリカ大陸全体にNAの希望のメッセージが運ばれていくのです。それが楽しみでなりません。

リアン・B（南アフリカ／ダーバン） およびジョスファット・K（ケニア）

ぼくは、このナミビアという国で新しくつながった仲間たちにメッセージを運ぶ方法を学びたくて、タンザニアのワークショップに参加してみようと思いました。同じ問題で苦勞している人たちと知り合うのは初めてでしたが、すばらしい経験になりました。そして、問題の対処法について多くのアイデアを得たのです。スピリチュアルな面でも精神面でも、ものすごく助けになりました。アフリカ大陸ゾーナルフォーラムの立ち上げに役買えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、神の思召しがあれば、イベントがあるたびに役立つことができるでしょう。ぼくの人生はいろんな面ですっかり変わりました。ほんとに、ぼくたちがひとつにまとまっていれば仲間の経験と力と希望から学ぶことができるんですね。ですから、これからも自分にできることがあればいつでもやるつもりだし、今回のようなことができたのは愛情深いハイヤーパワーによってNAWSが私たちを応援してくれたからだと感謝しています。

愛に満ちた仲間の集まりのなかで、

ティモシー・C (ナミビア)

私はこれまでに責任と忍耐を学んだ。そしていつもこの2つを実践しようという気持ちでいる。小さなことで自分にできることを2つか3つ根気よくやっていくことを学んだ。私は毎週木曜に、この国で唯一のリハビリセンターにいるまだ苦しんでいるアディクトたちにメッセージを届けてきた。これは、自分がどんな気持ちであろうと、あるいはどんな反応があろうと関係なくやっている。少数のことを正しく行うのは、多くのことを間違っただけで行うよりましである。今では、クリーンでよいという気持ちのある数人の新しい仲間たちから、頻繁(ひんぱん)に電話がかかってくるようになった。感謝の気持ちを抱きつつ、自分に惜しみなく与えられたものを無償で与えることによって心の平安を感じる。

チャーリー・C (レソト)

ボクはナトナエル。エチオピアで回復の道を歩むアディクトだ。クリーンになって20ヵ月(1年と8ヵ月)になる。8つの頃から、自分は出来損ないだから生きていても意味がないと思ってばかりいたくせに、もう一方では、世界一流の人間であるかのようにいい気になっていた。タンザニアで経験したことは、ボクには世界のいたるところに思いやりと愛に満ちたNAファミリーがいることを証明してくれた。みんな、実の家族よりもずっとボクのことをわかってくれているんだ。もし、アトランタからやってきたスポンサーがいなかったら、こんな仲間の集まりにつながるなどできやなかっただろう。ボクは、5ヵ月前にアディスにある病院にグループをついた。そのグループを通してメッセージを伝え、地元にいるほかのアディクトたちに手をさしのべて行けたらと思っている。

ナトナエル・T (エチオピア)

ガーナから心を含めて私は、タンザニアでの集まりに参加させてもらったことを心から感謝する。あの経験は、私が迷わずに回復していく基盤の一部になりつつある。あのとき、私は6年のクリーンタイムでリハビリしてからNAに戻ってきたところで、クリーンになって6ヵ月だった。私はあそこで、自分より長くクリーンでいるさまざまなアディクトたちと出会って交流することができたので、希望がもてるようになり、旅を続けていこうという気持ちになった。回復が現実のものであるのがわかったし、ハイヤーパワーからこのような贈り物をいただいたことに感謝した。タンザニアで経験したことによって、私は有意義な人生を送りながら家族や地域社会や国家に変化をもたらしつつあるといえるだろう。自分の回復を何にもかえがたいものとして大事にしている。

私は心おだやかな気持ちで帰国して、ホームグループ以外にリハビリ施設でもミーティングを開くようになった。これで、施設でもホームグループでも希望のメッセージを運ぶことができるし、その機会は増えつつある。そして、アフリカ大陸ゾーナルフォーラムのスカイプ会議からも得



るものが多く、私はスピリチュアルな面でも成長しつつある。仲間がいてよかった。古い仲間も新しい仲間もみんな、アフリカ大陸の夢の一部なのだ。
ダニエル (ガーナ)

こんにちは。ウガンダで回復の道を歩むアディクトのピーターです。NAワールドサービスのおかげで、人生が変わるような経験をさせてもらえたことに、この簿をお借りしてお礼を申し上げます。僕は、インターネットとNA Wayマガジンによって3年前にNAのことを知りました。こちらではNA Wayマガジンがどのグループにもあるわけではなく、治療センターでのミーティングに出たりすると手に入れることができないので、なんとかして毎号を読むようにしようと必死になっています。4月にタンザニアでのNAワークショップに招待されたとき、僕はそんなところに参加できることでワクワクしてはいたけれど、何をしたいのかよくわかりませんでした。ワークショップでは、ほかの国や地域にあるNAの仲間たちと会いましたが、これはまったく初めてのことでした。僕は仲間意識を覚え、ごく自然に心が通じてひとつになったように思えました。それはワークショップの会場でもホテルのロビーでも感じられたのです。役に立ちたいという熱意がしっかり伝わってきました。これによって、僕は自分がどういう人間でどこからやってきたのかなどまったく気にしない仲間の集まりにつながれたのが、本当に幸運だったと思い知らされたのです。アフリカ大陸というゾーンの成立は、このワークショップによって到達できる最高の部分でした。僕は、アフリカの仲間たちの人生を変える歴史に立ち会うことができたのです。それもこれも、NAWSが僕たちに機会を提供することで愛と一体性という精神を示してくれたからであり、そのようなNAWSにはこれからもずっと感謝するでしょう。今の僕は、これまでにしてNAに夢中になっているし、ウガンダの仲間たちはサービスに関わることやまだ苦しんでいるアディクトたちに手をさしのべることへの熱意をましている。みんな、もう、ひとりじゃないとわかっているからだ。
ピーター (ウガンダ)

南アフリカの 発展

60年に及ぶ回復、つまりダイヤモンド記念、となれば、実にめでたいことだ。この記念すべき年に、ヨハネスブルグの「最長老」が30周年のクリーンタイムを祝うのは偶然とは言え、なんともうれしいことだ。30年と言えば、NAの60周年の半分にあたる。これは、伝統的な記念品リストでは真珠がお祝いに贈られるし、現代のリストではダイヤモンドを記念品としている。南アフリカはダイヤモンドの国だから、ダイヤモンドのことはよくわかる。天然のダイヤモンドには光沢がなく、表面がざらざらで、たいていはくすんだ膜に覆われているのだ。NAにつながったときの俺はそんな感じだった。ぼんやりして、身も心もぼろぼろで、自分の殻に閉じこもっていた。それは、NAにつながったアディクトにおなじみの姿だが、でもダイヤモンドと同じで、俺たちは見事に変身するんだ。

ありがたいことに、アフリカの南端にあるこの国で誕生したNAが成長するのを、俺は15年近くにわたって見つめることができた。若くて経験が乏しく、世の荒波を知らず、もめごともなく、元気で、ほのぼのとして、素直で、伸び盛りの時代だ。そういう時期を知っているのは、特権というほかないだろう。南アフリカにある都市は遠く離れたものになっただけで、NAのミーティングは郊外にもぼつんといくつかあるもの、もっぱら3つの都市に集中している。ケープタウンとダーバンはそれぞれに独自の豊かな歴史があるが、俺が自分自身の経験から多少なりとも詳しく語れるのは、ヨハネスブルグの歴史だけである。

1982年か1983年だったろう。ひとりのメンバーが、ヨハネスブルグの繁華街にあるビル6階のリハビリ施設でミーティングを開くようになった。これは「監視つき」のミーティングだった。当時は、二人以上のアディクトが監視のないところで集まるのは違法とされていたのだ。しかし、監視されているのは緊張するのでもうまく話せない。それで済む、このミーティングはいつも帰りにお茶をするコーヒーショップでひっそりと目立たないように行われるようになった。最初にミーティングを開いていた会場は、警察によって監視されていたことがわかった。この監視はソーシャルワーカーに引き継がれたが、結局はうまくいかなかった。せっかくNAが誕生しても、監視されることの恐怖によってNAはアディクトにとって近寄りやすい場所になっていたのだ。

850マイルも離れて……

マーク・J (南アフリカ/ヨハネスブルグ)

第1回NA東アフリカコンベンション

2005年に東アフリカにNAを紹介したメンバーが、2010年に殺害された。20年のクリーンタイムを祝った直後のことだった。このメンバーは、クリーンになって5年目にアメリカ合衆国で12ステップによるNPO（非営利団体）を運営するようになり、やがてその仕事でアフリカ大陸にやってきた。東アフリカから帰国するたびに、このメンバーの妻は夫が旅の間に変わったのがわかった。このメンバーは、東アフリカをNAの生き方によって大きくかえようという情熱を燃やしていたので、何度もここに戻ってきた。そのうちには妻も（やはり感謝の気持ちを忘れないNAメンバーであるため）、「今度また東アフリカに行くときには、わたしも一緒に行くわ」と言うようになった。そして、東アフリカへの最後の旅には、妻もしっかりと同行した。その当時、ジンバブエとタンザニアにはアディクションに関するガイドライン（指針）らしきものがまったくなかったため、2人は自分たちの滞在期間中にアディクトの回復施設を開設するという仕事に取りかかった。施設の管理者がNAメンバーだったことにより、施設ができたことは東アフリカにおけるNA発展のきっかけとなった。ジンバブエではじめてNAミーティングが開かれたのは、2009年のことだった。

それから1年して私たちの友人が亡くなったのだが、その2年後の2012年の5月にこの友人の妻は、ソーシャルネットワークのなかに夫が運営していたNPOと同じ名前のサイトを偶然に見つけた。ここに問い合わせると、このサイトを運営している男性は、東アフリカにNAを導入する助けになってくれた男の話をした。まさに、夫の話だった。2人は、共通の絆によってすぐに親しくなった。NAのことを知ってほかの仲間に手渡したいという男性の思いと、東アフリカで始まったサービス活動を続けていきたいという妻の思いとが結びついたので。

私たちは原理に基づいたサービスを実践して指導するとき、メッセージを運ぶのであり、それと同時に回復によってもたらされるさまざまな贈り物をいただく。つまり、この2人の友人は、世界の異なる大陸にしながら心をひとつにして私たちの第一の目的を実現しようとした。それはクリーンでいることと、まだ苦しんでいるアディクトたちメッセージを運ぶことだ。だからこそ、東アフリカでNAのコンベンションを開くことによって私たちの回復を祝うことになれればいいと願ったのだ。

この取り組みには、何ヶ月もかけて電話やEメールや文書やスカイプなどによって多くの仲間が参加したのだが、なにせへんぴな地域でIT技術がないことや、生活面で思いがけない障害が発生したことにより、実行委員会を結成する際には困難に直面した。ほとんどの仲間にはクリーンであることの意味がわからなかったため、自分たち自身とコンベンションの夢とがどんどんかけ離れていってしまったのだ。そんなときに、だれかが、この世界のさまざまな地域にいるメンバーたちによるメーリングリストに私を加えた。そして気がつく、私は「求められれば、自分はいつでもサービスに関わるつもりだ」とメーリングリストにあるメンバーたちに返信していた。それによって、自分の人生が考えたこともない方法で変わろうとは知るよしもなかった……

イムラン・K (タンザニア/ダルエスサラーム)

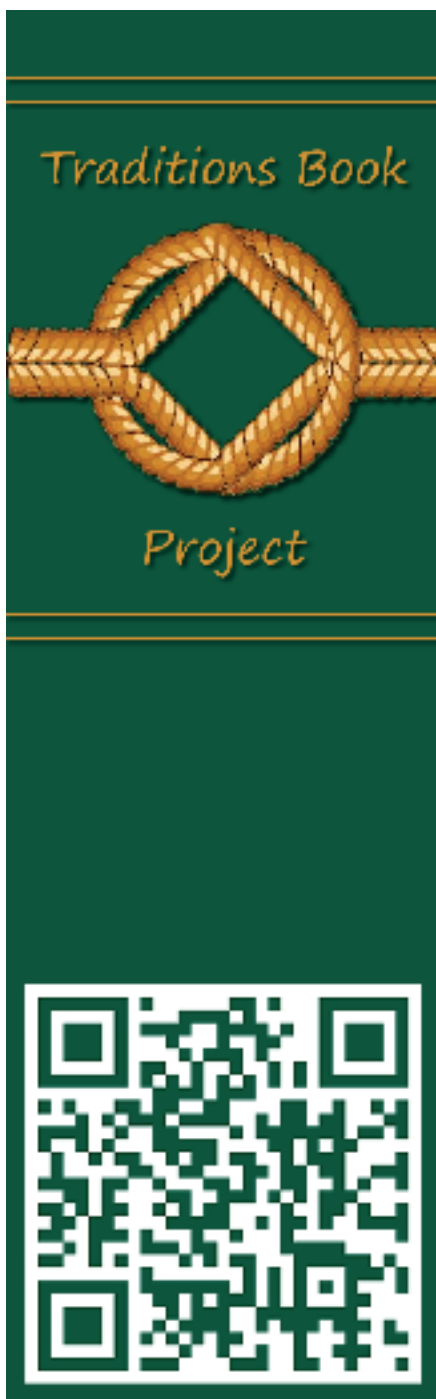
インターネット版NA Wayマガジンでは、マークとイムランの記事を最後まで読むことができます。



Electronic subscribers

can click here for additional content.

『伝統』に関する書籍のプロジェクト 最新情報



私たちは、昨年の終わりにワークショップ関連資料の第一弾を公開した。これを受けて、私たちのところにはワークショップによる大量の意見提供があったほか、インターネットによるアンケートでも2000通を超える回答があった。こうして届いたものには、さまざまな伝統を生かすことによってメンバーが経験したことだけでなく、この本の内容や形式に関するメンバーの考えが書かれている。

これからもひきつづき、ひとつひとつの伝統についてできるかぎり多くの意見を集めるために、私たちは意見収集のワークショップの形式を新たに2つ考案した。まずは、新しい90分間のワークショッププロファイルをつかった。これは、12の伝統のどれをテーマとしてもよいようになっている。このプロファイルを利用することにより、エリアやリージョンが何ヶ月もかけてできるだけ多くの伝統を取りあげながら一連のワークショップを開くことを願っている。

そして、もうひとつは意見提供を求めるワークショップとしてはこれまでにない形式で、私たちはかなり期待を込めている。これは一回にひとつの伝統に的を絞り、短時間でグループごとの議論を深めるものだ。私たちは「20分間のワークショップ」と呼んでいるが、このような形式なら15分もあればワークショップが開けるだろうし、希望があれば話し合いを延長することも可能だ。これによって、グループ単位でメンバーからさまざまな議論やアイデアが生まれることを願っている。

私たちは、このような新しいタイプのワークショップがどんどん開かれるようになるのはもちろん、メンバーたちから手書きの意見がスマートフォンの写真で送られてくることも歓迎している。

さらに、意識を高めてこのプロジェクトに参加できるようにするため、NA全体でもこの2014年を「伝統の年」として取り組んでいただくようお願いする。少なくとも月に一回は伝統についてワークショップを開き、1月には伝統1、2月には伝統2とすれば、2014年の12月には伝統12までいく。ただし、これは参考程度にとどめていただきたい。みなさんがすでにワークショップを開いて意見を収集してきたのであれば、どうか、そのままのスケジュールを進めていただきたい。私たちはただひたすら、伝統にまつわるみなさんの経験や考えが続々と送られてくるのをお待ちしている。そうしてみんなで力を合わせれば、最良の書籍ができるのだ。

そしてメンバーであれば、ワークショップや個人の意見提供にとどまらず、伝統に関する書籍の掲示板に <http://disc.na.org/trads> 投稿することもできる。そのほかにも、伝統に関するスピーカーのわかちあいを録音したテープやCDやmp3などがあれば、こちらに送っていただくとありがたい。このような録音はこのプロジェクトへの意見提供にとっても役立つだろう。みなさんの手元にある録音が、古いものでも新しいものでも、遠慮なく送っていただきたい。これからもみなさんの盛んなご参加をお待ちしている。

さらに詳しい情報は、www.na.org/traditions でご覧ください。

2014年ワールドサービスカンファレンス

今月号のNA Wayマガジンの発行に追われるなか、私たちは2014年のCAR（カンファレンスアジェンダレポート）の作成にも大わらわだ。CARは2013年の11月27日に発表されることになっているため、翻訳版はその1ヵ月後には入手可能になる。

CARには大量のリージョナルレポートが掲載されるほかに、サービスシステムプロジェクトに関するいくつかの動議と、「イントロダクション・トゥ・NAMミーティング」承認のための動議がひとつ、カンファレンス自体に関する動議が2つ盛り込まれている。それ以外にも、今年はある実験を試みることになっている。ワールドサービスカンファレンスのウェブページ <http://www.na.org/conference> で、CARの全内容または一部を説明するビデオを閲覧できるようになるかもしれないのだ。

なお、CARはカンファレンスの出席者とリージョンには郵送されることになっているが、ワールドサービスで購入するか、www.na.org/conference でダウンロードすることもできる。



CALENDAR

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Brazil

São Paulo 4-7 Dec; Grande São Paulo Regional Convention 3; Navio Cruzeiro, Santos; www.3crgsp.com.br

Canada

Ontario 14-16 Feb; Toronto Area Convention 8; Downtown Toronto Marriott Eaton Centre, Toronto; www.torontonaconvention.org

India

Maharashtra 12-14 Dec; South Mumbai Area Convention 8; Saint Mary's Villa, Mumbai; Event Info: rockyjustfortoday@gmail.com
Orissa 15-17 Nov; Kolkata Area Convention 8; Hotel Anandamayee, Orissa, Chandipur; www.nakolkata.org/

New Zealand

Rotorua 14-16 Mar; Rotorua Tuesday Night Group... In All Our Affairs; Waitapu Forest Camp, Rotorua; www.nzna.org

Slovenia

Ljubljana 6-8 Dec; Adriatic Regional Winter Convention 5; Hotel Park Ljubljana, Ljubljana; Event Info: ajgor.na@gmail.com

United States

California 29 Nov-1 Dec; Southern California Regional Convention 34; DoubleTree Ontario, Ontario; www.todayna.org/index.html

2) 10-12 Jan; TAC Convention 14; Discovery Inn/Redwood Empire Fairgrounds, Ukiah; www.tac-convention.org

3) 17-19 Jan; San Fernando Valley Area Convention 19; Burbank Airport Marriott, Burbank; www.nasfv.com/index.html

Connecticut 3-5 Jan; Connecticut Regional Convention 29; Hilton Stamford, Stamford; www.ctnac.org

Florida 20-22; Dec; Tampa Fun Coast Area Bay to Bay Women's Convention; Loews Don Cesar Hotel, Saint Pete Beach; www.tampanna.org/events/

2) 16-19 Jan; Palm Coast Area Spiritual Retreat 25; Gold Coast Camp, Lake Worth; www.palmcoastna.org

Illinois 15-17 Nov; Lake Borderline Area Convention 7; Illinois Beach Resort, Zion; www.chicagona.org/LakeBorderline/

2) 15-17 Nov; Greater Illinois Regional Convention; Prairie Inn, Galesburg; www.centralillinoisna.org/

3) 2-5 Jan; Chicagoland Regional Convention 26; Hyatt Regency McCormick Place, Chicago; www.crcofna.org

Kentucky 10-12 Jan; Louisville Area Convention 24; Galt House Hotel, Louisville; www.nalouisville.org

Maryland 29 Nov-1 Dec; Free State Regional Convention 21; Hunt Valley Inn, Hunt Valley; www.fsrna.org

2) 17-19 Jan; Virginia Regional Convention 32; Clarion Hotel/Hager Hall Conference/Event Center, Hagerstown; www.avcna.org/html/avcna_commitee.html

Massachusetts 17-19 Jan; Boston Area Convention 16; Boston Park Plaza Hotel & Towers, Boston; www.nerna.org

Michigan 22-24 Nov; Macomb Area Convention; Best Western, Sterling Heights; www.michigan-na.org/macomb

Missouri 15-17 Nov; Saint Louis Area Convention 7; Sheraton Westport Lakeside Chalet Hotel, Saint Louis; www.slacna-stl.com

New Jersey 30 Nov-1 Dec; Bergen Area Believe the Unseen; Hanover Marriott, Whippany; www.NewYearNewLife.org

New York 17-19 Jan; Nassau Area Convention 11; Long Island Huntington Hilton, Melville; www.nacna.info

North Carolina 15-17 Nov; First Greater Sandhills Area Convention; Holiday Inn Bordeaux, Fayetteville; www.crna.org

2) 15-17 Nov; First Piedmont/Greensboro Areas Convention; Clarion Airport Hotel, Greensboro; www.greensborona.org/soh

3) 3-5 Jan; Western North Carolina Area Convention 29; Crowne Plaza, Asheville; www.wncna.org

Ohio 29 Nov-1 Dec; Greater Cincinnati Area Unity Weekend 3; Holiday Inn, Cincinnati; www.nacincinnati.com

Pennsylvania 21-24 Nov; Tri-State Regional Convention 31; Seven Springs Mountain Resort, Seven Springs; www.starttolive31.com

South Carolina 14-17 Nov; Port City Area Convention 3; Crowne Plaza Hotel, North Charleston; www.portcityna.com

Tennessee 27 Nov-1 Dec; Volunteer Regional Convention 31; Hilton Hotel, Memphis; www.natennessee.org

Texas 15-17 Nov; Texas Unity Convention 121; Redwood Lodge, Whitney; www.tucna.org

Utah 15-17 Nov; Utah Regional Indoor Convention; Yarrow Hotel, Park City; www.naUtah.org

Calling All Newsletter Editors and Committees
Does your area or region publish a newsletter?

Please let us know—and add us to your email/ mailing list!

naway@na.org

The NA Way Magazine; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409

Share or seek newsletter experience on the discussion board:

<http://disc.na.org/servdisc>

WCNA 35 Merchandise

To be available online soon!

<http://www.na.org/wcna>

Choose from a variety of clothing, caps, and mugs.

Treat yourself or buy a gift for a friend or sponsee/sponsor.

All sales are final; quantities and sizes
are limited to stock on-hand.

NAWS Product Update

A price increase will be effective 1 January 2014;
please visit www.na.org for new price list.

30th Anniversary Basic Text

Commemorative,
Hand-Numbered Limited Edition

Deep red and caramel-colored cover with bronze
NA logo medallion, lenticular title page,
and gift/display box

Item No. 1103 Price US \$35



30-Year Basic Text Timeline Mug

Our Basic Text's history artfully depicted on
this unique deep red & caramel-colored mug.

Item No. 9418 Price US \$15



Special Bundle 30th Anniversary Basic Text and Timeline Mug

A special price for this Limited Edition Basic Text plus a Timeline Mug

Item No. 1103B Price US \$45

eLit

Living Clean: The Journey Continues

Available on Amazon and iTunes

Price US \$6.99

Amazon



<http://tinyurl.com/opzrwjj>

iTunes



<http://tinyurl.com/luucy5>

Living Clean Mug

Features distinctive cover artwork
of our newest book

Item No. 9417 Price US \$15

Special Bundle *Living Clean* Numbered Edition and Mug

A special price for this
Limited Edition *Living Clean* plus an artful mug

Item No. 1155B Price US \$39





Chinese

谁、什么、如何、为何

Item No. CH-3101 Price US \$0.22

我是成瘾者吗?

Item No. CH-3107 Price US \$0.22

Danish

The Group Booklet

Det lille hæfte om gruppen

Item No. DK-1600 Price US \$0.85

Tilgængelighed for dem med særlige behov

Item No. DK-3126 Price US \$0.22

French

Information about NA

Informations à propos de NA

Item No. ZPRFR1002 Price US \$0.26



Hungarian

Csak a mai nap

Item No. HU-3108 Price US \$0.22

Korean

누가, 무엇을, 어떻게, 왜

Item No. KO-3101 Price US \$0.22

나는 중독자인가?

Item No. KO-3107 Price US \$0.22

Keytags: Welcome thru Multi-year

Item No. KO-4100-4108 Price US \$0.48



Hebrew

In Times of Illness

Item No. HE-1603 Price US \$2.90



Nepali

xl:k6n / ;+:yfx; xl:k6nx;
/ ;+:yfx;df ;]jf / Pg=P ;b:o

Item No. NE-3120 Price US \$0.22

Swahili

Kwa Leo Tu

Item No. SH-3108 Price US \$0.22



Coming Soon

2014 NAWS Calendar

The journey continues with this 13-month calendar (December 2013 – December 2014) featuring NA literature quotes and unique artwork. Limited supply.

Portuguese (Brazil)

White Booklet
Livreto Branco

